

## 令和3年度 第3回図書館協議会

- 1 日時 令和4年2月25日（金）14：00～
- 2 場所 中央図書館2階研修室
- 3 出席者（委員）今村委員、福沢委員、玉置委員、竹内委員、矢澤委員、和田委員、  
林委員、会津委員、酒井委員  
（事務局）瀧本中央図書館長、矢澤中央図書館長補佐兼情報サービス係長、  
関口県図書館長、宮下上郷図書館長、小森ビジネス支援係長、  
（司会）小森ビジネス支援係長
- 4 瀧本館長挨拶
- 5 今村会長挨拶
- 6 会議事項
  - （1） 令和3年度事業報告および令和4年度への取組について
  - （2） （仮称）飯田駅前プラザ内図書コーナーについて
  - （3） その他
- 7 事務局からの事務連絡
  - 
  -

\*\*\*\*\*

### 6 会議内容

- （1） 令和3年度事業報告および令和4年度への取組について
- 会 長 最初に会議事項1、令和3年度の事業報告および令和4年度の取り組みについて、資料の説明をお願いします。
- 事務局 資料「第4次飯田市立図書館サービス計画に基づいた令和3年度の事業報告および令和4年度の取組」により説明。

### I. 図書・資料・情報提供を充実させます

#### 令和3年度の取組、成果および課題

- ・中央図書館の方で7月から開館時間を10時から9時半に繰り上げの変更を行った。現在は土日の曜日を中心に、早い時間からの利用が増えている。
- ・本の購入について、毎週の選書会議で中央・県・上郷・分館のバランスをとりながら、類書の有無、利用頻度を考慮して購入してきたが、中央図書館の方で利用頻度の統計を取ったところ、利用されていない図書もあるということがわかった。それは図書館側のニーズの把握不足なところと、受け入れたばかりの図書はある期間は新刊の棚に並ぶのでよく目について貸し出しされたりするが、新刊の期間を過ぎるとそれぞれの棚にいつ埋もれてしまうことが考えられる。コロナ禍で利用者の方の滞在時間が短いということもあるので、利用者の目につきやすく、手に取ってもらおう工夫が必要であると感じている。
- ・昨年度のコロナ禍に比べると利用者数、貸出冊数ともに2～3%増加だが、コロナ禍前の令和元年度に比

べると 2%の減少。2~3%ということで、利用はそれほど変わりはないと感じていて、本を借りたい方、本を借りることを生活の一部として必要としている方々がいらっしゃる、図書館が必要とされている、ということに改めて認識した。一方で貸出冊数に占める予約冊数の割合、予約で本を借りる方はやはりコロナ禍前よりも増えている、棚を見て本を選ぶ人は減っている。それはコロナ禍だから仕方がないという部分もあるが、ちょっと心配でもある。

- ・ビジネス支援の関係では、エス・パードの産業技術大学の講座においてブックリストの配布を2回行い、飯田商工会議所の起業創業塾においてブックリストの配布やビジネス支援のPRを行った。その後受講者の方に利用されている。
- ・飯田市全体での図書資料の保存について、その資料の精査を行ったり、あと中央図書館と上郷図書館とで分担保存も行っているが、なかなか書庫がいっぱいであり、継続的な課題となっている。

#### 令和4年度の主な取組

- ・来年度の5月にオープンする（仮称）飯田駅前プラザに中央図書館から高校生向けの本を持っていく（後述）が、そうすると移設した後の中央図書館の蔵書のレイアウトをどうするのが課題となってくるので、本の探しやすい配置に整えていきたい。
- ・大きな課題となってきたのが資料保存のところ。今その除籍の具体的な基準について、例えばこの分野についてはこういった図書を保存してこういったものを除籍する、といった具体的な基準を定めているところであり、今年度は小説とか読み物について除籍の基準の具体的なものを作成した。来年度は小説以外のところでまた違う分野を決めて、引き続き基準の作成を進めていきたいと考えている。

## II. 子どもの読書活動を推進します

#### 令和3年度の取組、成果および課題

- ・7ヶ月児相談での絵本のプレゼント「はじめまして絵本事業」これは10年来ずっと継続して行っていて、今年度は年間を通じて行うことができている。ただし、これまで2歳児相談において、絵本のプレゼントはないが、保健課で行っている乳幼児健診の相談事業の中の集団指導に図書館職員も入らせてもらって、読み聞かせや親子読書の絵本の話を行っていたが、今では乳幼児相談の集団指導自体がなかなか難しいという状況があるのと、そういう健診や相談自体をなるべく短時間で、ということもあり、現在資料配布のみということになっている。
- ・今年度さらに新規事業として、「はじめまして絵本事業」に続く2冊目の絵本のプレゼント、4歳児、保育園という年中児への絵本プレゼントというのを計画し、市内の保育所等を通じて約800名の児童へ絵本のプレゼントを行った。8月から順次市内各園を図書館職員が訪れて、希望する園では職員の読み聞かせおはなし会と合わせて、プレゼントとして本当に1人1人へ手渡す形で行った。保育施設の方々にも非常にご協力をいただいて、全市の4歳児家庭へその子の絵本というのを届けることができ、とても好評をいただいている。この「おともだち絵本」は8月から配布を開始し、令和4年1月に保育所等を通じての配布は完了。その後、保育所に通園していない児童へは個別の通知・配布を行って、今年2月に一応全ての対象者への配布が完了している。対象の保育所等と対象者数は、43園にて795名に園を通じてプレゼントを行い保育所等に通園していないお子さん6名を合わせて801冊の配布となっている。点字の絵本を除いて16種類の本の中から1冊選んでもらう形でのプレゼントを行い、その配布数でもっとも多かったのが「三びきのやぎのがらがらどん」、続いて「おいしいのぼうけん」、3番目

が「わにわにのおふろ」、というようになっている。

- ・絵本の楽しさを身近に体験してもらう機会を増やすために、保育所等を通じて各家庭へ定期的に本が届く仕組み作りというものにも以前から取り組んでいる。市内の保育所への団体貸出、例えば年中に 30 冊、年長に 30 冊、年少に 30 冊、あるいは各クラスに 30 冊というような単位での団体貸出を行って、それぞれの園から週末などにお家へ絵本を持って帰ってもらうという取組を行っているが、今年度はこれがおともだち絵本事業の実施と合わせて呼びかけを行った結果大幅に拡大して、34 の市内の園へ団体貸出を行い、そのうちの 28 園で家庭への持ち帰りも行っていただいているというところである。
- ・小学生については、自発的な読書習慣の定着に向けて、昨年度から学年別の図書リスト「よむリス」の作成に取り組んでいる。これは公共図書館の職員だけでなく、より子どもに身近に接している市内の学校図書館の司書、学校図書館の担当者の先生たちから図書リストの作成委員を募り、一緒にこのリストの作成に取り組んでいる。令和 3 年度は小学校の三、四年生のリストを作成して、配布をしている。
- ・中学生を対象とした社会教育活動としては、12 月からの「ジブン・チャレンジ」期間の一環として、図書館では「join us! いいだ Lib 一日司書体験」を 12 月に行った。中学 3 年生 3 名の参加があり、ブックコートかけ体験、それぞれおすすめの本を持ち寄っての紹介、簡単なブックトークなどをしてもらった。

#### 令和 4 年度の主な取組

- ・7 ヶ月の絵本プレゼントは継続して行っていくが、これまでずっと資料配布のみだった 2 歳児相談において、短時間でも良いので、図書館員から幼児期の絵本の楽しみについてのメッセージを伝えていくことを再開していく予定でいる。
- ・4 歳児へのプレゼントおともだち絵本も継続して行っていくが、事業の効果を検証するために、来年度は今年絵本を受け取ってくれた 5 歳児へのアンケートというのをも合わせて行っていくことを考えている。
- ・団体貸出については、まだ家庭への持ち帰りというのを行ってない園についても、汚破損や弁償など心配しないで積極的に家庭へ持ち帰ってもらう呼びかけ働きかけを行っていく予定。
- ・小学生向けの図書リストの作成は、昨年度 1～2 年生、今年度 3～4 年生ということで 2 学年ずつ作成をしてきて今度 5 年生 6 年生となっていくわけだが、本格的な文学、長編の作品も増えてくるため選定に時間がかかるということで、来年度については小学校 5 年生 1 学年分のリストの作成、さらにその次の年度に 6 年生というふうに、ちょっと計画を一部変更して実施する予定。

### Ⅲ. 身近に使える図書館の充実を図ります

#### 令和 3 年度の取組、成果および課題

今年度大きな二つの目標を立てて取り組んできた。

##### ① 図書分館の充実、地域の特色を生かした読書推進、地域や公民館との連携

- ・分館は、やはりコロナ禍が大変大きく影響し、前半で 1 回、それから今回 1 月 2 月の期間休館になってしまった。ただ、昨年度は本当に活動を全く止めてしまったが、今年度は、例えば保育所とか高齢者施設への団体貸出などできることは続けて行ったり、休館期間に館内の環境整備をしたり、図書整理をしたりして、環境を整えていくことは進めている。
- ・数年来重点的に行ってきたことであるが、分館はやはり各地域に根ざした図書館であるので、その地域

の何か特徴的なものの資料をしっかりと集めて、地域の皆さんに地域のことをより知っていただく、地域に愛着を持っていただくお手伝いをするということで、地区のコーナーというのを作ってきた。昨年度まで設置ができていなかった 8 ヶ所の分館にも今年度新しく設置し、これで全ての分館に地区のコーナーができた。一つ自分の地域にコーナーをつくったことで、そこの本を見て、うちの地域にこんなところがあるんだ、とか、歩いて回るコースなどが展示してあると、あそこ行ってみようとか、いろいろ地域に興味を持てたという声をいただいている。

- ・その地区のコーナーの一環として、10月に伊賀良分館に原田泰治文庫を設置した。新聞等でも報道が出て、前回の協議会の時にも触れたので委員のみなさんもご存知かと思うが、伊賀良地域にゆかりの方がいらっしゃったので、原田泰治氏より複製画の寄贈いただいたり、本の寄贈をいただいたりした。これも伊賀良でも、原田泰治さんって子どもの頃伊賀良に住んでいたということを知らなかった方も結構いらっしゃったということで、反響の声をいただいている。

②10代後半から20代の若い世代、今まであまり図書館利用が少なかった世代に図書館に気軽に触れられる環境の整備に向けて進めていく

- ・分館のもう一つの、若い世代へ向けた取組として、こちらも新聞等で度々取り上げられているが、令和4年度5月中旬に開設予定の（仮称）飯田駅前プラザの建物の2階3階に入る公共フロアの一角に、中央図書館の分室が設置される。ターゲットを高校生に絞って、気軽に本に親しんでもらうところ、それから学びや新しい興味に広がっていくところ、そんな場所になるように、設置に向けて準備を進めているところである。

#### 令和4年度の主な取組

- ・分館に関しては、コロナの状況がどうなるかにかかわらず、皆さんに親しまれる、使いやすい図書館を探っていく。分館はその地区の方のみの利用ということで、冊数も4冊とか小さな規模の図書館ではあるが、もう少し貸出や返却において利便性のいいような仕組みが作れないかということを探っていく。
- ・（仮称）駅前プラザは後で改めて別項目で議題に上がっているが、設置に向けた準備をすすめ、オープンしてからはスムーズな運営と、そこを拠点として高校生に図書館や本の良さを知ってもらい、そんなことにつながる活動をしていきたいと思っている。

#### IV. 学びあいにより人と人がつながり、読書や学びが広がる場づくりに取り組みます

##### 令和3年度の取組、成果および課題

- ・12月に読書会交流会を実行委員会主催で行った。読書会をしている方たちの良い情報交換の場になったり、読書会に関心がある方と読書会の方たちとを繋ぐきっかけになったり、良い機会になったなと思っている。読書会交流会の実行委員の方のご協力を得て、6月にミニ読書会を行っており、そこでも読書交流で学びを深めることができた。
- ・県図書館と県公民館との共催で、大人と中学生と一緒に郷土資料を活用して地域のことを学ぶという「県ナゾとき探偵団」を行った。県の中学校へ行き、県地区に関して何か調べたいことはないか、とか、謎はないか、と呼びかけを行ったところ、県の由来は何か、県の中学校や小学校ってなんで廊下がなくてベランダなのか、七妙石って何か、といったような疑問が出た。それについてまず大人と一緒に本で調べて、あと現地へ、七妙石のある切石などへみんなで見に行ったりして、地域への意識を高めるとともに、世代を超えてのいい交流の場になったと思っている。調査結果は模造紙にまとめて、県地

区の文化祭や県図書館や県中学校へ巡回展示を行っている。

- ・コロナ禍で地名講座など企画していたことがなかなかできない中、一つ読書推進に向けて、実は明後日であるが、猫町倶楽部という全国的な大きい読書会を主宰している山本多津也さんという方をオンラインでお呼びしての講演会を予定している。

#### 令和4年度の主な取組

- ・コロナ禍において、今までと同じような形で講座や企画をすることは難しくなっていて、いろいろな企画もコロナ禍でどう行っていくのかが大きな課題になってきている。なんとかそのコロナ禍でも学びや交流が行われる方策を検討していきたいと考えている。

### V. 地域の歴史と文化の記録を蓄積し、提供します

#### 令和3年度の取組、成果および課題

- ・中央・県・上郷図書館で三六災害に関する展示や、美術博物館の菱田春草の展示に合わせて図書館でも関連の本を並べたりして展示を行い、市民の方に知っていただくことができた。
- ・「県ナゾ解き探偵団」の活動に付随して、県の郷土資料の紹介とか、図書館のホームページに掲載されている郷土資料図書リストの紹介なども行ってきた。

#### 令和4年度の主な取組

- ・南信州新聞がパソコン上で見ることができるデジタル提供システムの更新が迫っているので、この更新を行うとともに、利用PRをしていきたい。
- ・郷土資料にふれる機会を増やしていきたいので、まち歩きをして地域の魅力を知り、資料を郷土資料で調べる、という事業を計画していきたい。これは駅前プラザがオープンした後に、高校生と一緒に何かそういったことができたらいいな、ということを考えている。

### VI. 安全で安心して使える施設を整えます

#### 令和3年度の取組、成果および課題

- ・施設の計画的な修繕に関しては、令和2年度末に教育委員会の方で策定しました「飯田市教育委員会施設等総合管理計画」に基づいて、図書館における5年間の改修計画を策定し、これに基づいて実施することとなる。
- ・上記計画による工事は今年度2件あり、1件は9月に中央図書館1階メイン照明のLED化の工事を実施した。それから2件目は旧県図書館の施設の解体であるが、地元の皆様のご理解をいただきながら、今年に入ってから徐々に解体工事の進捗が進んでいるところ。
- ・施設改修計画以外での主な修繕は、上郷図書館の入口自動ドアの修繕、それから中央図書館の空調設備の修繕があった。
- ・新型コロナウイルス対策として、中央・県・上郷の3館入口に非接触型の検温システムを導入して、利用者の方には検温をしてから入っていただいている。また、中央図書館において飛沫防止用アクリル板を今年に入ってから設置したところである。

#### 令和4年度の主な取組

- ・現在飯田市議会で来年度予算案についてご審議いただいているところであるが、先ほどの施設改修総合管理計画に基づいて、来年度は中央図書館のエレベーターの更新、外壁のタイルの劣化した部分の改修

工事、それから照明は、今度は中二階を中心としたLED化の工事を予定している。

- ・旧鼎図書館敷地については、もともと土地の名義が農林水産省の名義になっているということで、更地になったところで国への返還の手続きを進めていく。

## VII. その他

- ・令和4年度は長野県の図書館大会が飯田市で開催されることになっている。これは県内各地を毎年回って行っているもので、飯田下伊那には12年に一度ぐらいで順番が回ってくる。それが来年度飯田市での開催ということになり、今年度から準備委員会事務局を中央図書館として、飯田市の図書館において開催に向けた計画を練ってきているところ。日程としては来年度10月29日土曜日というところが決まっています、円滑な開催に向けて準備を進めることになる。こちらに関しては協議会委員の皆様にもお世話になることがあるかと思うので、ご協力をお願いしたい。

### 〈質疑〉

- 会 長           ありがとうございます。それでは今ひととおり説明があったが、このことについてご質問ご意見等あればお願いします。
- 委員A           このコロナの中でも、30分以内の滞在ということであるが本を借りることができて、利用している私としては大変ありがたかったと思っている。こういう時に何をやっていいのかというアイデアはなかなか浮かばないが、このように本を貸していただけることをありがたいと感じている。一つ伺いたいのは、本を購入するにあたって利用者からの購入希望というのがあると思うが、その数はこのコロナの影響で何か変化があったのか、教えていただきたい。
- 事務局           まだ統計的な事は言えないが、感触としては、やはり皆さん家にいる時間が多く本を読む時間も増えているのかな、と思われ、リクエスト数は増えているのではないかと感じている。窓口においても、特定の方ではあるが、次から次へと予約してくださる方もいらっしゃって、すごく増えている、ということではないが、増えているように感じている。
- 委員A           ネットではリクエストできないんですね。
- 事務局           はい。インターネットでは図書館にないものは、図書館のシステムで調べていただくということではできないようになっているので、リクエストについては、窓口でお申し出いただくか、お電話でお受けしている形となっている。
- 事務局           補足をさせていただくと、図書館にない本のご要望については、聞き取りをしながら本を特定する、という対応となり、電話や窓口で利用者の方と直接やりとりをする必要がありますので、今のところはネットではできないということになっている。
- 委員B           おともだち絵本のことについて。私もちょっと保育園に関わっているのですがこのパンフレットをいただいたが、かなりの冊数がある。で、まず、保育士が絵本を知らないという現実が実はあり、これってどういう本なのか、どういう内容なのか、とか聞かれた。私としては、できれば、保護者の方の相談にも保育園で乗れるような形が望ましい、と思っていたけれども、それどころではなく保育士の方が知らないという現状に接して、非常に困惑した。せっかくいいパンフレットなので、例えば読み聞かせボランティアを活用するなどして、この中の絵本を紹介していけるような形がとれるのが望ましいのかなと、とても難しいことだがそういうことを思った。

保育士が学校で勉強してくる中で、絵本の勉強をするっていう時間が実はないので、新人の保育士はほとんど絵本を知らない、という状況もある。図書館でやることではないかもしれないし、コロナ禍ではあるが、読みきかせのボランティアグループを活用しながら、このセカンドブック事業がいい方向に持っていけるといいなということを感じている。

- 事務局 ありがとうございます。おともだち絵本の16冊については本当に長い間読み継がれてきて、これから先もまた間違いなく子どもたちを楽しんでいってもらえるものだと思っているので、子どもたちに関わる方にはひととおりに知っていただきたい。保育士の方への呼びかけ働きかけというのは、全くないわけではなくて、私自身も以前保育園の保護者会にて絵本の講座ということでお話をさせてもらったり、市内の保育士の方へも絵本の読み聞かせの講座ということでお話をさせていただいたりしたこともあった。この2年コロナでなかなか直接の話や働きかけが難しい状況が続いているが、引き続き子どもたちに関わる方への、直接子どもではなくて子どもたちに関わっている方への、絵本を通じた有効な働きかけというのは、いろいろな機会を発信して、また今言われたように読みきかせのボランティアで活動してくださっている方たちともいろいろと協力しながら取り組んでいきたいと思っている。ありがとうございます。
- 会 長 いかがでしょうか。ご意見等は。
- 委員A 感想です。分館のところ。私の住んでいる地区で、ちょっと会議があつたりとかそういうときに分館を利用させてもらっているが、地区の資料が一つのコーナーとして用意されていて、あちこち探さなくてもすぐ資料が手に入るので大変ありがたいと思っている。本当ちょっとしたコーナーで大それたものではないけれども、とても自分にとってはありがたいコーナーである。
- 事務局 ありがとうございます。なかなか分館の利用の声が直接聞ける機会が少ないのでありがたい。やはり例えば地区のものを、中央図書館の郷土資料の中から探し出すのはなかなか大変であることを思うと、そういうところに地区の分館の良さが出てくるのかなと思う。これからも何か要望あればどんどん出していただきたい。
- 会 長 他の委員の方いかがですか。
- 委員C とても本の好きな友人の話で、しょっちゅう図書館に行って本の背表紙を眺めているが、いつも同じ本が並んでるので、上郷と鼎と中央図書館とで本をごっそり入れ替えるようなことをしてくれたらまた違う本が見られるのに、と言っていた。蔵書が上郷は上郷となっているが、あれはもうその図書館のもの、ということになっているのか。
- 事務局 今のところは、その図書館のもの、という形にしてある。もちろん、仮に鼎図書館にあったものを中央図書館に移管したり、といったことをすることも、場合によってはあるが、おっしゃるように定期的に入れ替えるということはない。よく読まれる本、小説のようなもので人気のあるようなものはこの館にも入っているけれども、いろんな種類を見たいということか。
- 委員C そういうことだと思う。私もそうだが、特定の作家のところへ行くと、いつも同じ本が並んでいる、というのがやっぱりある。それが他の図書館へ行くと、違うものが見られるんじゃないか。それはリクエストすれば届くことは承知しているが、そうではなくて、背表紙を眺めながら本を探す喜びの中で、また違うものを見たいな、ということだと思う。
- 委員B よくわかります。
- 事務局 例えば、大きな活字の本は特に全体の冊数が少なく、また大きな文字でないと読めないという

方もいらっしゃるので、分館では大きい活字の本は中央や上郷から持っていき、今はこういう作家の大きな活字の本があるけど、そこから3カ月くらい経ったらそれは引き揚げて、また違う方の大活字本を送って新しいのを読めるというような、分館とはそういう形でやったりすることもある。それはでも、いつも同じような棚に見えてしまっている図書館がよろしくないという反省も含め、やはり新鮮な感じがしないということでもあると思う。蔵書を定期的に動かすというのは、日常的に鼎と上郷と中央を入れ替えるというのはなかなか厳しい状態で、利用者の方に歩いて回ってもらっている形になっている。今のお言葉の背景には、さっき私が申したように、いつも同じように見せてしまっている図書館というのはやっぱり面白くないだろうと思うので、そこは反省として受け止めさせていただいて、蔵書の入れ替えはちょっとできないかもしれないが、そんな印象でない図書館にもなりたいなど。一方では、同じところに同じ作家の本があるからわかりやすいという方もいらっしゃるが、いつも同じ本がある、としたら、ちょっとそれはまずいかなと思うので。

- 委員C 先ほど新刊が、新刊の期間を過ぎると一般の棚へ行って埋もれてしまう、というお話があった。ベストセラーを出てすぐ読みたいわけではないけれども、ちょっと前に出た本が一般の他の図書に埋もれる前に、またそれはそれで一箇所に集まっていると、そこから探すかもしれない。新刊の棚というのはよく見るが、そのちょっと前のものもまたどこかに、この辺りが去年出た本、というようなのがあったりするといいかもしれない。去年の今頃でた本、という感じですか。探したいんですよ。あっちこっち。
- 事務局 鼎の図書館は冊数が少ないので、少し前に話題になった本とかもテーマとか関係なくて並べておくと、手に取られて借りられていく。ベストセラーになったような本は、それが新刊でなくても利用されていくんだなっていうことを思っている。やはり手にとってもらえる工夫は常にしていけないといけないのかな、と思っている。
- 事務局 今行っているテーマ本というのも、ちょっとなんか隅の方でやっている感じかなという気もするので、図書館の空間の問題もあるが、そこはほんとに図書館の基本的な姿として、考えていきたいと思う。
- 委員B 多分本の好きな人は、これを借りたいと図書館に行く人と、もう一つは、図書館に行ったらなんか自分が今まで読んだことがない何か楽しい本があるかなあと思っていく人というと思う。今の方はたぶん後者の方でしょうね。気持ちがよくわかるので。私も、これを借りようと思って行ったんだけど、なくて、でもなんか棚を見ているうちに、あ、そういえばこの本前を出てたっけ、みたいなことがあったりするので、ちょっと前の本もまたどこか日の当たる所へ出してきていただけると、そこでまた手に取ることができると思う。
- 会 長 他の委員の方いかがですか。
- 委員D なかなか要望を受けるのは大変だなと思って聞いていた。利用する方も、他の図書館へ行ったりして、新しい空気を吸うのもいいのかなと思う。違う本に出合えることもあると思うので。
- 会 長 他の委員の方いかがでしょうか。
- 委員E 説明を聞かせていただいて、小さな子どもさんたちへの手厚い手当ができてるかなってことで、感心している。
- 会 長 他の委員の方いかがでしょうか。

- 委員 F すいません、こんな機会だったので、実は皆さんのお話を聞きつつ、中央図書館のホームページに入ってみて、私の興味のある本を探してみたところ、一発で検索ができた。とっても嬉しかったです。そんなところで充実度を実感させていただいた。
- 会 長 他の委員の方いかがですか
- 委員 G 年中の子どもたちに絵本を配布するというのが、私たち親からするとすごくいいことだと思う。うちの子はちょうど年中にはいないので、その下と上になってしまうが、7か月の時に、3人いるうちの2人が同じ本をもらってきている。お兄ちゃんが読みすぎてボロボロになって、でもすごく好きで。一番下の子に他の本もあるのにこれでいいのっていう話をしたら、これがいいと言って、もう一回その本をもらった。今でももう大好きで、夜寝る前の読み聞かせの時間をつくっているが、その時間に必ずその本を持ってきて、好きで何度も何度も読んで、暗記するぐらい読んでいる。子ども達3人が3人とも、ちょっと自分の言葉も入ってしまっているが、3人で暗記をしているので、個々に、例えばお父さんになったりお母さんになったりとか役になりきって、寝る前に3人で、本を読むというよりは本の中に入り込んで、すごく楽しませてもらっている。パンフレットを見ていくと、知っているものとお話自体知らないものがあるので、親から見ても、本こういうのどう？と軽く目を通しておいて内容を話してみるということもしやすいし、何冊かを出してもらってその中から、というのがすごくいいと思う。
- 事務局 パンフレットを家に配るとするのは、プレゼント以外の本も読んでいただきたい、という思いもある。
- 委員 G 小学校でそういう冊子をもたらってきたときも、こういう本があるんだということ子どももすごく興味を示しているので、一回図書館に行ってその本を見てみたりとか、それでほしければこれ買ってほしいとかいう話もしてくるので、何冊かを先生からでもいろんなところから教えてもらうのはすごくいいと思う。
- 会 長 他の委員の方いかがですか。
- 委員 H 中央図書館でも貸出があつてとてもいいと思うが、分館の方でも曜日を決めて貸し出すとか、そういうことはできないか。もしできると私の住んでいる近くの分館が利用できていいなど、個人的に思っているが。
- 事務局 できるといいが、公民館全体が休館という状況の中で、分館は公民館の中に入っている。建物が別のところでも、そこだけ分館で開館ということもちょっと難しい。非常に残念でご迷惑おかけしてるところだが、公民館と休館開館は一緒に合わせていきたいという今のところの状況である。
- 会 長 他の委員の方いかがですか。
- 委員 I あるタレントさんが、すごい本が好きで、自分にとってためになる本は背表紙が輝いて見える、ということをおっしゃっていて、ああなるほどなと思って聞いていた。自分のためになるとか自分の生き方の参考になるって何だろうなと思っていたら、うちの学校でなかなか学校に来れないお子さんがたまたま学校に来たときに、文庫本を持っていて、何の本を持っているのって聞いたら、太宰治の斜陽だったんです。先生も本好きだからちょっと話するか、と言って話をしたところ、太宰の世界が好きだと言い、人間失格もあるし、津軽もあるし、読んでみるかと聞いたら、持っているって言う。自分で買ってるらしいです。そんなことで普段なかなか

か学校に来れないお子さんともそんな話ができて楽しかったと思っただが、その子から学んだのは、先ほどベストセラーの話があったが、残っていく本にも必ず理由がある、ということ。自分は夏目漱石読みたいな、と急に思い出してくる時があって、そういうときに、図書館に行って借りられるっていう環境って素敵だなと思っている。ニーズに寄り添うということも公益サービスからいうと大事なことだと思うが、昔のものに触れたいという子どももいる、ということもちょっとご承知おきいただければ。で、来年度、本校は令和 5 年度に開校 150 周年を迎える。おそらくこの飯田下伊那管内の小学校は、来年度あるいは再来年度あたりに開校 150 周年を迎える学校が相当数あると思う。そういうときに、150 周年の記念のパンフレットを作ろうとか、記念の冊子を作ろうとか、昔の歴史を紐解こうといったときに、ネットはあまり役に立たない。何かって言うとやっぱり蔵書なんですね。で、学校にそういう蔵書があればいいが、蔵書がない。そうするとやはり図書館に頼るしかない。なのでそういう文化を継承していく図書館のありがたさというのを感じている。こないだも 6 年生の感想文を読ませてもらう機会があったが、明らかに本読んでる子というのは、文章力も違うし、表現力が違う。その子はどんな本を読んでいるのかというと、教室の遠くから見ているだけでも、いろんな本を読んでいるというのはわかる。多様なものに触れることで文章力が高まっていくんだろうなと思って、いつも感心している。図書館にはいろいろお世話になっているが、図書館こそ多様性があるっていいのかなと思っている。

○会 長 他にご意見ありますか。よろしいですか。では次に進みたいと思います。

## (2) (仮称) 飯田駅前プラザ内図書コーナーについて

○会 長 続いて会議事項の 2、駅前プラザの図書コーナーについて、説明をお願いいたします。

○事務局 資料「(仮称) 飯田駅前プラザへの中央図書館飯田駅前分室設置について」により、前回の図書館協議会で説明したその後が決まったこと、今進んでいる状況を説明。

### ●設置の目的

- ・飯田駅前という、高校生が大変利用しやすい場所に図書館の分室を作ること、読書から離れがちな年代である高校生やその前後の世代に、本に親しむ機会をつくる。
- ・基本的には公民館を中心とした市の組織、多文化共生とか、中心市街地活性とかいろんな組織が入るので、その中に図書館の機能が入ること、いろんなところと共同した取り組みを、高校生や中心市街地の様々な関係者と一緒に行っていく。
- ・図書館だけではできないようなこと、それから図書館以外のところに来た人にも本のアピールができる、そんなことも目指していく場所になる。

### ●基本機能

- ・基本的には図書館のシステムが入り、貸出、返却、予約のサービスを同じように行う。

### ●学習交流機能

- ・複合施設ということを最大限に生かしていきたいと考えている。例えば 2 階の多目的ホールで行われるイベントに、関連本をすぐ側に持って行って並べ、それがまたその場ですぐ借りられる、そんなことが行える。いろんなところから学びが広がっていくようなことを、図書館でもそんな機会も設けていきたい

いと思うし、図書館だけではできないことにも広がっていくといい。

- ・今、高校生から意見をいただいたりもしているが、高校生自身が本に関して何か発信できるような場、高校生の棚、のようなものをつくって、皆に紹介したい本を並べてもらうとか、先ほどの話のような、自分は太宰が好きなんだっていうのを発信できるような、そんな場ができてくるといいと思っている。

#### ●開館時間、休館日、職員配置時間

- ・図書館としては、駅前プラザをやっている時間が、図書館の開館時間という考え方。朝 8 時 30 分から午後 10 時までが、施設の空いている時間ということになる。休館日は 12 月 29 日から 1 月 3 日までの年末年始。その時間全てというわけにはいかないが、司書の職員は週 5 日配置して対応していくことになる。
- ・職員がいなくても利用できる本を置き、またセルフ貸出機、予約本受取ロッカーというのも考えている。予約本受取ロッカーは、コインロッカーみたいなところに用意できた本を入れておいて、暗証番号をメールなどでお知らせする。そうすると自分でその暗証番号を打ち込んで予約の本を取り出して借りていく、という想定をしている。一方で、職員がいるときには、いろんな本を探してる方のお手伝いなど、調べものや本の紹介などは職員ができることをやっていく。職員がいる、いないそれぞれの状況で、できることをはっきりさせてサービスを行っていきたいと思っている。

#### ●意見聴取

- ・前回の図書館協議会で、高校生のニーズをくみ取って欲しい、それを蔵書や運用に生かして欲しい、というご意見をいただいた。その後も高校の図書委員たちと対話を続け、最近ではどんな雑誌を入れるか希望を聞くなど、やりとりをしている。

#### ●今後の予定

- ・建物自体は今年度中に完成予定。4 月、5 月にかけて引っ越しや中の準備をし、5 月中旬にオープンということになっている。

#### ●蔵書

- ・駅前プラザの図書コーナーの広さは 130 m<sup>2</sup>ということで、蔵書冊数は 8,000 冊を予定している。冊数は少ないが、他館と本の入れ替えを行って新鮮さを出したり、表紙を見せて手に取りやすいような環境を作ったり、と考えている。主な利用者層は高校生を考えている。
- ・どんな本を置くかについては、大きく三つの内容で考えている。
  - ①高校生にまずは来ていただいて、手に取って本に親しんでもらいたいので、アニメ、音楽、芸能のほか、高校生が親しみやすいコミックとかライトノベルを置く。
  - ②「探す」をキーワードに、勉強とか部活とか、高校生の生活のウェイトを大きく占めるような内容のもの、勉強では 5 教科の科目の内容はもちろん、それ以外にも専門校の生徒の皆さんが学ぶ建築だとか農業だとかいったもので、ガッツリ勉強っていうよりはその科目が楽しいと思えるような、そういった入門書のような内容の本を置きたいと考えている。あと、プログラミングやデザインといった本なども置いて、高校生が自分の好きなことやりたいことを見つけてもらえることができたらと考えている。また、高校において探究学習が令和 4 年度から本格的に始まるので、高校生が調べたいことがあったときに対応したり中央図書館へ繋げたりとかできるように、地域を知る郷土資料や、世界の情勢や文化を知ることができる本を、カウンターが一番近いところに設置して職員がサポートできるように考えている。

- ③「考える」をキーワードに、高校生それぞれが抱えている悩みに寄り添ったり、悩んでるのが自分1人だけじゃない、自分1人ではないんだ、っていうことが感じられる、本と出会うことでセーフティネットになるような内容の本を置きたいと考えている。また仕事や大学の学部を紹介したもの、就職試験や面接の心構えやビジネスマナー、あとは哲学の入門的な図書なども置いて、自分が将来どう生きていくのか、キャリアデザインなどを考えていってもらいたいと考えている。
- ・この3つの内容の図書を、それぞれいろんな分野のものを組み合わせて、ステップ書棚や小テーマのコーナーといったところへ、テーマを決めてテーマ本として設置をしていく。これは職員がテーマ本を設置するだけではなくて、市民の方や高校生のご協力もいただきながら設置して、それをもとに交流していくことも考えている。
  - ・図書館以外の部署等とも連携をとりながら、公民館の講座で関係するような本を置いたり、あと外国籍の方にも利用いただけるよう外国語の図書を置いたり、あと1階の商業施設へお買い物をしに来た方にもついでに本を借りて入っていただけるように、一般の方が読むような小説や絵本を置くことも考えている。

〈質疑〉

- 会 長            ありがとうございます。ご質問等ありましたらお願いします。
- 事務局           飯田駅前分室という、今までなかった形の図書館を新しく設置するというので、今行われている議会の第1回定例会に、その分室を新たに設置するという飯田市立図書館条例の改正案を提出して、このあと社会文教委員会等で協議される形となっているのでご承知いただきたい。こちらは分室とし、他の地区にあるのは分館という規定となっている。地区の方は貸出冊数4冊まで、駅前プラザの方は中央鼎上郷と合わせて10冊と、こちらの方と同じ形を考えているということもあり、地区の方とは区別をつけたいということと、中央図書館の中の高校生の部分を取り出して、高校生対象の図書館を作っていくということで、中央図書館の分室とする。分館も中央図書館の分館、地区の分館っていう形ではあるが、ある一定の年齢対象の本を取り出して、サテライト機能として設置するというので、分室となっている。
- 委員B           とても大変なことだなあと、説明を聞きながら思った。
- 事務局           職員がずっと配置することができないというお話をさせていただいた。これもまた来年の予算に今上げているところだが、会計年度任用職員を1名、図書館全体の中で1人増員という形を要望している。新しい図書館設置になるので、今の人員ではやれないだろう、新たにサービスを始めたい、というところで、1人要望しているところ。本当は図書館であれば中央鼎上郷と同じように、毎日職員がきちんと配置ができればいいのだが、全体の中で現時点では配置ができる状況にないということで、ご案内のとおり、月曜水曜金曜は高校生の来る午後3時から午後8時までの間、それから土日は朝から来れるよう午前10時から午後6時、火曜日、木曜が職員の配置なし、という形をとらせていただきたい。それとともに、職員を配置しているときだけ見られる書架があるっていう形で、今までにない図書館でもあるし、本当はいつも人が居て、いつも空いてればいいのだが、まずはこの内容で始めさせていただきたい、というのが現在の状況である。
- 委員B           願わくは、常駐していただけるといい。

- 事務局 前は蔵書に関してが主だったかもしれないが、要望に沿って柔軟な対応をしてほしいというご意見もいただいた。ご意見を伺いながらどういうふうにしていくのがいいかということで、変動する部分ももちろん出てくると思う。もう一点前回ご心配いただいたのが、夜間。中央図書館が今木曜日だけ午後8時まで開館しているが、そこは複数職員がいる。ここは2階3階がある中で、図書館にいる職員がそれぞれ1名で、危機管理についてはどうなのか、というお話もいただいていた。これも今公民館の中で検討を進めていて、今まで公民館は夜間はシルバー人材センターの方が窓口受付ということで1人いらっしやったが、駅前プラザに移った後は警備会社に委託をするよう、今度の予算要求であげさせていただいているところ。その中で図書館からは、警備員の方が図書館内を巡回していただくようなことをしていただきたいという要望を出している状況である。
- 会 長 ご質問はありますか。
- 委員A その司書は、1人でずっとやるという形か。それとも交替をする形か。
- 事務局 配属は中央図書館の予定で、その中央図書館の中の、基本的には2人の職員が交代で勤務をするというのを考えている。曜日を分けて、ある職員は月曜と、例えば土曜日。もう1人の職員は水金と土曜か日曜のどちらか、ということをして現在予定している。夜間の時間が長く、1人の職員がずっと夜働くというのはちょっと厳しいのではないかとということで。
- 会 長 他にご質問はありますか。
- 委員B 運用が始まって少し経ってから、利用についてのアンケートなどを取る予定はあるか。例えば3~4ヶ月くらい経ってから、利用してみてどうですか？というようなアンケートを取る、ということは考えているか。
- 事務局 そこまではまだ考えていない。
- 委員B 利用してみてどうだったかというのをどこかで聞くような機会を作るとか、例えば簡単でいいので紙を置いておいて、利用してみての感想書いて箱に入れもらうでもいいので、そんな形をとっていくと、自分たちが思い描いていたものとはまた違った部分で、見えてなかった部分ももしかしたら見えてくるのかな、ということは今ふと思った。またご検討お願いしたい。
- 会 長 他の方がいかがですか。よろしいですか。一応5月から運用という形になっています。これから、運用していく中でまたいろいろと出てくるかと思しますので、その時にまた、皆様のご意見を出していただければと思いますので、よろしくをお願いします。

### (3) その他

- 会 長 続いて、その他とありますけれども、何か皆さんの方から何かありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、これで協議を閉じます。